

JAERA

NEWS LETTER

一般社団法人日本自動車リサイクル機構 ニュースレター

- 巻頭言 / 正会員の会費減免について…P1 □BCP 実態調査の結果について … P2・P3
- 自り法 15 年目の見直し議論への提案について … P4
- 第 4 回ブロック長会議の結果 / 各ブロック会議の開催結果 … P5
- 北自協の活動紹介 / 鹿児島県 ELV 協同組合の活動紹介 / 「J-FAR 事業リサイクル設計事例集」製作… P6
- 2020 年度 駆動用 HV バッテリー共同出荷事業 / 2 月新車販売・使用済自動車発生台数 … P7
- 鉄スクラップ最新情報 … P8 □行事予定・お知らせ / 編集後記 … P9

vol. **145**

正会員の会費の減免について

01

正会員の皆様へ

—2020年度 第4四半期(1月～3月)の会費の免除が決定されました—

今期の正会員会費につきましては、第2四半期(7月～9月)分を免除となりましたが、第4四半期(1月～3月)分につきましても、臨時理事会の承認を経て、免除の決定が下されましたのでご案内させていただきます。

今後、会費納入状況・方法ごとに以下の対応を行っていく予定です。

①第4四半期分を既に納入されている正会員様

⇒来期(第17期)の第1四半期(4月～6月)分の会費に充当いたします。
来期の会費請求書は、第1四半期分を除いたご請求になります。

②毎月の自動引き落としで会費を納入されている正会員様

⇒来期の第1四半期(4月～6月)までの会費の引き落としはございません。

③これから第4四半期分会費の納入を予定されている正会員様

⇒第4四半期分の会費は納入する必要はございません。3月25日時点で第4四半期の会費納入が確認できない場合は、来期分会費請求書は全期分のご請求となります。

他、ご不明な点がございましたら、事務局までお問い合わせください。

巻頭言

最近 SDGs が話題となっております。これは、持続可能な開発目標 17 のゴールと 169 のターゲットから構成され、先進国を含むすべての国が対象で、誰一人取り残さない社会の実現を目指しています。

当社が加盟しているリサイクル部品団体 NGP 九州支部でも、使用済自動車から始まる「循環型社会の構築」を目指すことを宣言しました。九州でも各社で環境問題や取り組み内容などのアイデアを出しながら進めています。

当社では 3 番の献血活動を年 3 回、12 番のつくる責任、つかう責任でリユース部品の普及活動、資源のリサイクル、ASR の削減も目標にしました。

ISO14001 も取得していますが、改めて温暖化対策や資源の有効活用が大事だと思っております。

〈広報部会 伊地知 志郎〉

《編集・発行責任者》

一般社団法人日本自動車リサイクル機構

広報部会長 永田 則男

《お問い合わせ先》

一般社団法人日本自動車リサイクル機構

〒105-0004

東京都港区新橋3丁目2番2号

TEL: 03-3519-5181

FAX: 03-3597-5171

MAIL: jaera-homepage@elv.or.jp

H P: http://www.elv.or.jp/

2020年日本自動車リサイクル機構 BCP 実態調査」結果報告（概要版）

東京都市大学 環境学部 准教授 木村眞実

【調査要領】

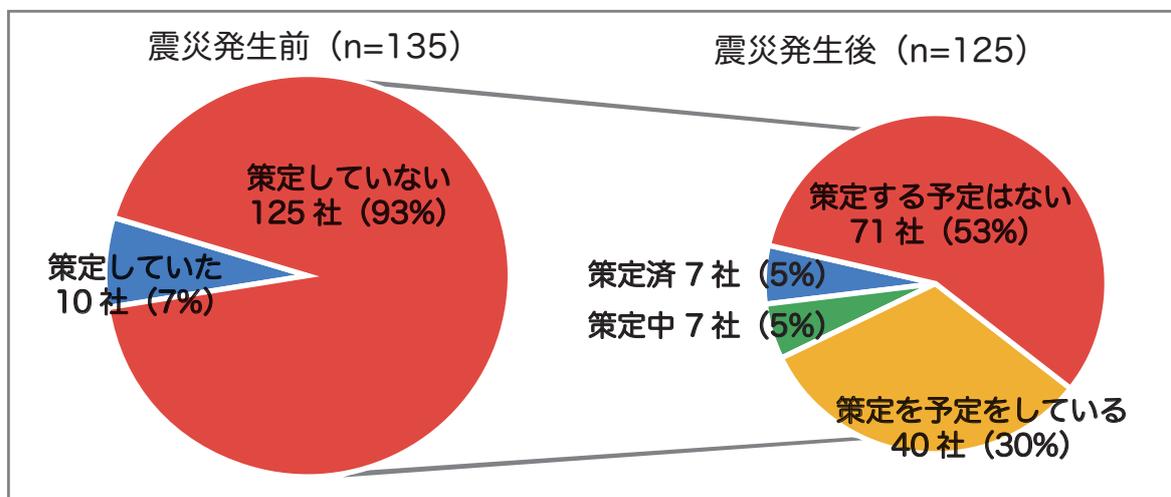
- ①調査期間:2020年11月1日(日)～15日(日)
- ②対象企業:日本自動車リサイクル機構会員企業
- ③調査の方法:FAX・Webの送受信による自計記入を求めた
- ④回答企業数:469社のうち140社(29.9%)から回答を得た(うち、有効回答数135)

BCP（事業継続計画）とは、事業資産の損害を最小限にとどめつつ、中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために、平常時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための方法、手段などを取り決めておく計画を言う。

2020年から、年1回を目途に、会員を対象としたBCPの実態調査を行うこととなった。本調査の目的は、リスク対応への一助になること、個社の経営環境に適應するBCPの策定に役立てることである。今後も、継続して、多くの企業様に回答へのご協力を頂ければ幸いである。なお、調査結果では、選択肢からの複数回答が可能な質問項目については「複数回答可」と付記している。

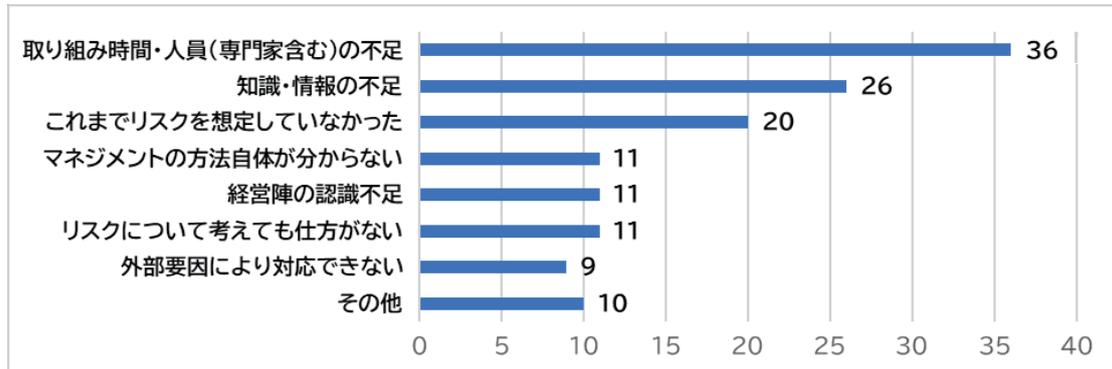
- (1) 東日本大震災、熊本地震等の震災発生前の時点において、企業活動を取り巻くリスクを具体的に想定して、事業継続計画(BCP)を策定していましたか。また、震災発生後においてはどうか。

図：1



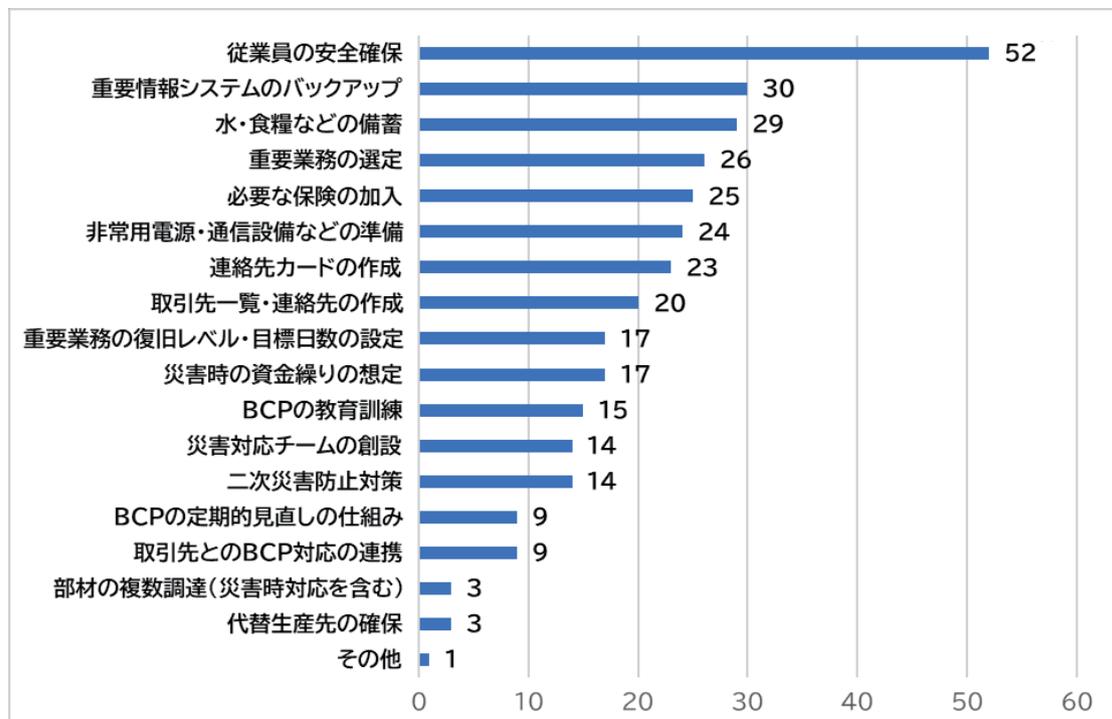
上図（図：1）に示すように、震災発生前では、「策定していない」が125社(93%)、「策定していた」が10社(7%)であった。このうち、「策定していない」の125社について、震災発生後の状況について示すのが、上図の右側の円グラフである。震災発生後では、「策定済」が7社(5%)、「策定中」が7社(5%)、「策定を予定している」が40社(30%)、および「策定する予定はない」が71社(53%)であった。

(2) 前ページ図：1 において、震災発生後において BCP を「策定する予定はない」と答えた方にお聞きします。その理由は何ですか。複数回答可。



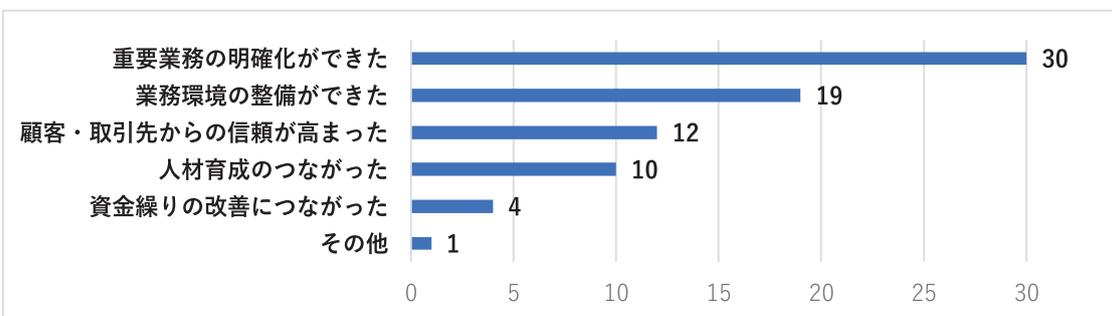
単位：社

(3) BCP（経営計画に織り込まれている場合も含む）に含まれるものは何ですか。複数回答可。



単位：社

(4) BCP(経営計画に織り込まれている場合も含む)により、どのようなメリットがありましたか。複数回答可。



単位：社

なお、BCP の策定と継続的な運用の具体的方法については、中小企業庁から情報提供がされており、ご活用いただきたい。→ <https://www.chusho.meti.go.jp/bcp/index.html>

■ 詳細な「報告書版」はこちら → <http://www.elv.or.jp/media/20/20210323-2021BCP.pdf>

第 53 回合同会議で要望した事項のご報告

昨年 9 月に開催された、産構審、中環審の第 50 回合同会議におきまして、当機構の酒井代表理事より、機構の活動報告と自動車リサイクル法 15 年目の見直しにあたり業界として解決すべきと考えている問題について提起したところですが、2021 年 2 月 22 日に開催されました第 53 回合同会議におきましても、以下の事項を追加で要望いたしましたのでご報告させていただきます。

①リサイクル料金外出しの中古車流通を改め車両価格に含む流通とする

現制度は新車購入時にリサイクル料金を預託、その後の中古車流通においては料金を外出しで先送りし、最終所有者がその全額を負担する制度。便益を受ける各者が応分の負担をするという法設計時の理念から外れており、車両価格に内在させることにより車両価値の低下に応じた応分の負担とすることができる。また低価格車の購入者に対するリサイクル料金の負担の逆進性を解消できる。

②フロン、エアバッグの作業料金の改定

法律の施行以来、作業料金は見直されておらず、また作業料金算定基準の参考の対象業種が廃棄物処理業とされているが、産業分類からも異なっていること。

③特預金の使途の見直し

リサイクルへの社会要請の変化や新素材、新技術に柔軟に対応するため。解体インセンティブ制度設計にあたり、元々の ASR 処理料金の枠内では実効性のある仕組みづくりは出来ないと考え、特預金の活用を提案する。

④リサイクル料金の輸出返還制度を見直し、国際的なリサイクル支援を可能とする制度に

輸出中古車の相手国の多くは発展途上国であり、資源、環境問題は国境を越えた対応を必要とすることから、輸出元国として備えるべき。日本の自動車リサイクルは世界に類のないレベルに達していると考えており、国際的に貢献できる余地は非常に大きい。

⑤自動車リサイクル士制度活用の方策を具体的に検討いただきたい

違法ヤード撲滅、適正処理の推進と共により高度なリサイクルを目指すためには、設備だけではなく、知識、技術などの能力の向上が必須であり、そのために自動車リサイクル士制度は有効な手段と考える。

■第50回合同会議での提起内容

→ http://www.elv.or.jp/media/Rakude/20201102090854-vol.140_20201102.pdf



第4回ブロック長会議の開催結果

04

3月9日に開催されました第4回ブロック長会議では、常任役員、ブロック長及び監事だけではなく、各地の会員の皆様にもオブザーバーとしてご参加いただき試みを行いました。会員の皆様に対して、より近い距離で会議の内容をお伝えすることが出来るとともに、皆様のご意見などを直接的にお伺いすることが出来るよう今回ご参加をお願いしたところ、14名の方々にオブザーバーとしてご参加いただき、結果30名で会議を開催することが出来ました。

会議では、①酒井代表理事より前頁の第53回合同会議での要望事項の説明と報告、②機構本部の今年度の活動報告、③各ブロックの活動報告の3点が大きな議題となりました。③では、今年度コロナ禍において会議やコミュニケーションの場としてWEB会議システムを活用したこと、活用出来るよう機材の購入や使用方法の説明を実施したという報告が多くあり、今後も同様の状況が続くことからWEB会議の活用をどんどん進めていきたいという意見が多くありました。

また、各ブロックに割り当てられているブロック活動費について、ジャンパーの作成やエアバッグ一括作動ツールの予備機購入、WEB会議用機材の購入等の活用内容の紹介があり、有意義な活動費の更なる活用をお願いし閉会となりました。

各ブロック会議の開催結果

05

沖縄ブロック会議

2月24日にWEB会議で開催されました。計20名での会議となり、機構本部からは酒井代表理事、木内副代表理事にもご参加いただきました。

発炎筒について、沖縄では日本保安炎筒工業会の発炎筒広域回収システムによる回収費用が高額である点、更に離島はそのシステムのスキーム対象外となることに対する問題提起がありました。また、油水分離層の汚泥についても処理業者と収集運搬業者に交渉して、処理が滞ることなく出来るよう取り組んでいるとの報告がありました。

東北ブロック会議

2月26日に仙台会場で開催となりました。また、一部の方と機構本部からはWEB会議を活用して参加をし、会場とWEBを併用した会議となりました。

本部の報告や機構の取り組み、各会議の内容など、会員の皆様に広く平等に共有し、伝えていくためにどうしたらよいかという議題がポイントとなりました。例えば、報告内容を動画として発信・配信することや、ブロック会議に会員の方も直接参加して貰うことなど様々な意見とアイデアが飛び交いました。



【東北ブロック会議の様子】

九州ブロック会議

3月12日にWEB会議にて計16名での会議となりました。沖縄と同様に、酒井代表理事及び木内副代表に加えて、熊本大学の外川教授にもご参加いただき、特に各地の入庫状況や価格についてのヒアリングや各地域からの情報提供などが活発に行われました。また、触媒の価格が高騰していることに起因して、オークションで購入した車に触媒のないものがあることや外国人の入国状況についてなど、多岐に及ぶ内容の情報交換が活発に行われました。

安全啓発ポスターを作成しました！

2020年度から石上理事長体制で新しくスタートを切りました。

北自協会員が原点とする「廃車処理に使命をもって、安全を第一に行動していく」というスローガンでスタートする！という思いを込めて作成しました。誰が見てもパッと分かり、目に留まるデザインとするよう心がけ、会員からはオーソドックスで分かりやすいという意見や反響をいただいております。

防災の研修を実施するなかで、このポスターも活用しながら、安全作業や職場環境の改善の意識向上に繋がっていけばと考えております。



鹿児島県 ELV 協同組合の活動紹介

■鹿児島県 ELV 協同組合が災害時支援事業者に登録されました。

鹿児島県では、支援が必要な災害が発生した場合、災害時支援事業者リストをもとに県、市町村、防災関係機関から支援を要請する「災害時支援事業者登録制度」を進めており、今回、その事業者リストに鹿児島県 ELV 協同組合が登録されました。

地域社会への貢献活動の一環として登録申請に取り組んだもので、建設関連企業の登録者が多いなか、自動車解体業者が登録されたのは初めてとのことでした。

災害が発生した場合には、クレーン付き車両や積載車両、作業員を派遣し、緊急車両の通行妨害となっている放置車両の排除業務などに無償で協力することとなります。近年、大雨災害など増加しておりますが、災害時には組合メンバー4社で協力していきたいと思っております。

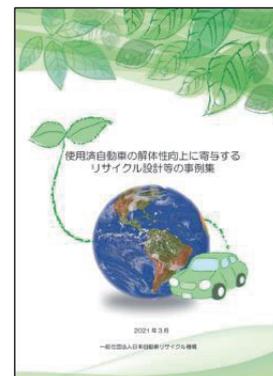
「J-FAR 事業 解体業者とメーカーの連携強化に向けたリサイクル設計事例集」製作

■リサイクル設計事例集が遂に完成！

昨年より皆様にアンケートやヒアリング、情報提供等でご協力いただいております「リサイクル設計事例集」が遂に完成しました。

皆様からいただいた改善要望や実際に行っている好事例などを紹介しており、自動車メーカーの取り組みについては、それぞれ取り組み別に整理しております。また、実際の事例や取り組みなどの写真を数多く掲載することで、誰でも分かりやすい事例集とすることが出来ました。自動車メーカーが行っているリサイクル設計とともに解体業者による好事例も紹介することで、双方に興味を持ってもらい、両者のコミュニケーションの土台となることを目指しております。

■4月1日より当機構HPで公開→ <http://www.elv.or.jp/36-90-0.html>



【事例集表紙】

2020 年度駆動用HVバッテリー共同出荷事業 2 月出荷状況と下期累計

09

当機構の「駆動用HVバッテリー共同出荷事業」につきまして、2020 年度 2 月集荷分及び下期の累計を以下のとおりご報告いたします。

上段 :2 月出荷数 下段 :2020 年度下期累計 単位 : 個

参加会社数	プリウス 20	プリウス 30	プリウスα	レクサス CT200H	アクア / ヴィッツ	カローラアクシオ / フィルダール	レクサス GS450H	クラウン HV GWS204
18 社	23	90	2	0	41	0	0	3
45 社	86	247	8	0	102	1	0	6

クラウン HV AWS210	SAI/レクサス HS250H	カムリ HV	日産デュトロ / ブルーリボン	ノア/ヴィクシー / エスファエア	シエンタ HV	プリウス 50	不良品 A-C	合計
1	4	2	0	1	0	1	0	168
7	8	6	0	2	0	2	17	492

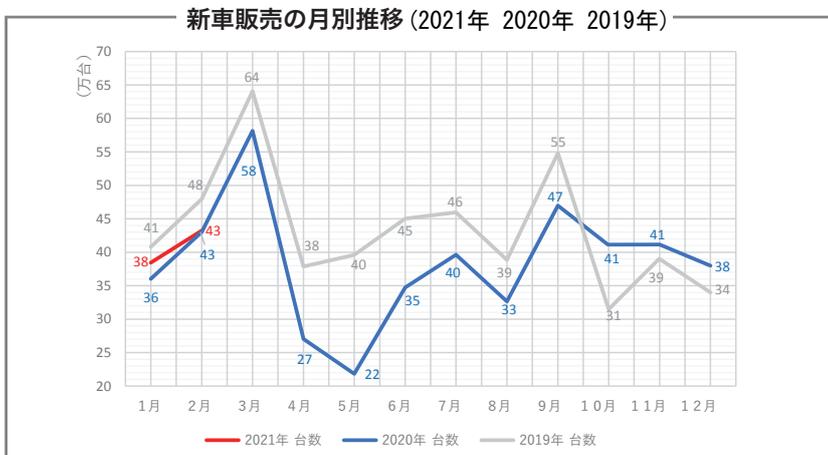
□引き続き皆様のご参加をお待ちしております。よろしくお願いたします。

□2020 年度上期の詳細データ・事業説明資料はこちら→ <http://elv.or.jp/index.php?itemid=1700>

2 月新車販売・使用済自動車発生台数

10

■2021 年 2 月度 新車販売台数 432,298 台 前年同月比 100.5%

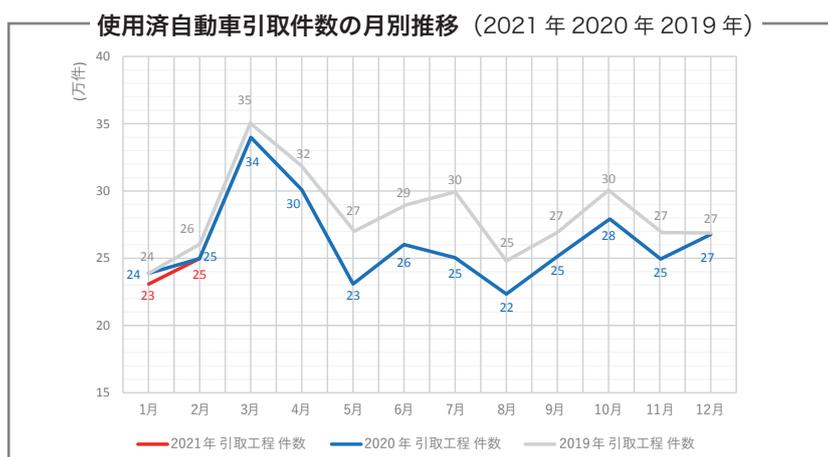


過去の新車販売台数推移

年累計	台数	前年比(%)
2021年 (2月まで)	816,740	103.3
2020年	4,598,615	88.5
2019年	5,195,216	98.5
2018年	5,272,067	100.7
2017年	5,234,165	105.3

※出所：一般社団法人 日本自動車販売協会連合会

■2021 年 2 月度 使用済自動車引取 (電子マニフェスト) 実施状況



引取件数
247,783 件 (前年同月比 97.7%)
フロン回収工程
221,537 件 (前年同月比 98.8%)
解体工程
255,387 件 (前年同月比 97.7%)

※出所：公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

3月第3週(18日)の鉄スクラップ動向



3月18日の国内スクラップ炉前実勢価格(中心値)

		H2	気配
関東	北関東	41,000～42,000	弱含み
	南関東	41,000～42,000	弱含み
名古屋		41,000～42,000	弱含み
関西	大阪	40,500～41,000	弱含み様子見
	姫路	40,000～40,500	弱含み様子見

関西鉄源テnder H2をFAS39,950円で落札 内外相場の下落を反映

関西鉄源連合会(黒川友二会長)は3月16日、第100回共同輸出入札を行い、日鉄物産がH2をFAS1トあたり39,950円で5,000ト(1件)落札した。積期は3月22日～5月15日まで。応札件数は4社4件で4社辞退。10日実施の関東テnderに比べて3,026円安となった。3月中旬前後からの国内外市場の値下がりが大きく反映されたとはいえ、地場相場を下回り、4万円を割り込んだ。

市況牽引役の輸出や関東湾岸が海上運賃の急騰に圧迫される形で軟化し、先行下げへと転じる動きにあった。東京製鉄4拠点で値下げを実施した13日からは大阪地区にも下げが波及し、H2実勢は40,500～41,000円(一部高値41,500円)へ反落。需給を反映した展開とはいえ、世界市場で下落基調が進んでいるため、「今回の値下がりが長期化するほどの不安はないが、足元については海外の影響を受けやすいのでは」(商社)と見る向きが多い。

■東国製鋼、H2をFOB水準41,000円で成約

韓国・東国製鋼は日本産鉄スクラップの新規商談で、3月16日にH2・FOB水準41,000円(CFR44,000円)を提示した。先週の現代製鉄向け成約価格から1,000円安となった

【関東地区】 浜値が先行安、電炉買値に割高感

関東の鉄スクラップ市場は、軟調な相場展開となっている。海外・輸出市場が下落する動きが続いていることから、需給双方とも先安観が強い。関東市場では浜値が先行して下落し、H2浜値は4万円を割り込み、電炉買値に割高感が出ている。このため地区内では電炉筋の追加値下げが予想されている。3月18日時点の関東市場のH2炉前実勢価格は41,000～42,000円中心。H2浜値は38,500～39,500円中心に続落した。

【東海地区】 3月中旬からは調整局面に

名古屋地区の鉄スクラップ市況は弱含み気配。3月初旬の値上がりからは一転して中旬は調整局面を迎えている。こうした中、東京製鉄は3月17日から岡山と高松の2拠点で全品種一律500円の値下げ改定を実施したが、田原工場の購入価格は据え置いている。同社の全拠点の中でも最高値の特級価格42,000円を維持しており、比較的旺盛な地区需要を反映した状況にある。3月18日時点のH2炉前実勢価格は41,000～42,000円中心。

【関西地区】 大勢様子見の展開も高値解消の動き

大阪地区の鉄スクラップ市況は、大勢様子見ながら一部電炉の下げ改定により高値が解消へ向かった。3月17日からの東京製鉄岡山工場の追加値下げの後、地区内では電炉2社の買値引き下げにとどまったが、湾岸筋の集荷意欲の低迷をはじめ輸出を含めた海外環境もいまだ冴えないことで、続落懸念を払拭しづらい展開だ。3月18日時点のH2炉前実勢価格は、大阪地区が40,500～41,000円中心。姫路地区が40,000～40,500円中心。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、3月18日午前時点のもの)

行事予定

— 4月の主な行事予定 —

- 4月1日（木）～4月15日（木）
 - ・日本自動車リサイクル機構 第3回景況調査
- 4月6日（火）
 - ・J-FAR（事例集）定例会
- 4月7日（水）
 - ・第1回 広報部会

※急遽、日程の
変更・延期の場合がございます。

April

お知らせ

自動車税の賦課期日延長の特例措置につきまして

国土交通省より、通常年度末となっている自動車税の賦課期日を最長15日間延長する特例措置を実施すると発表が3月16日にありました。詳細につきましては以下のリンク先をご確認くださいようお願いいたします。

【自動車の廃車等に係る窓口の混雑緩和対策～新型コロナウイルス感染拡大防止～（令和3年3月16日）】

<https://www.mlit.go.jp/jidosha/content/001391147.pdf>

【参考資料】

<https://www.mlit.go.jp/jidosha/content/001391148.pdf>

編集後記

新年度が始まり心機一転、元気潑刺といきたいところですが、コロナの影響なのか世の中はいまひとつスッキリしません。新型コロナのワクチン接種もようやく始まりましたが、一般市民にゆき渡るまではしばらく時間が掛かる様子です。

薬に依存する気持ちもわからなくもありませんが、人間の持つ自然治癒力も侮ってはならない力を秘めています。江戸中期の禅僧、白隠禅師は二十代半ばで恐ろしい禅病に冒され、死の淵まで追い込まれました。禅病というのは僧が度を越した激しい修行の末に掛かる病気です。これに掛かると肉体の苦痛ばかりか精神も冒されてしまうという恐ろしい病気です。いよいよ年貢の納め時かというときに白隠は白幽子という仙人に出会います。そこで「内観の秘法」「軟酥黄卵の法」を授かるのです。いわゆる丹田複式呼吸法ですが、自然治癒力を活性することによって白隠禅師は三年掛からずに禅病を完治させ、長寿を全うすることができました。その秘法を記した「夜船閑話」は現在も読み継がれている名著です。人間の持つ免疫力も捨てたものではないのです。

（広報部会長 永田 則男）